



＝令和6年度竜王小学校だより＝

竜の子

令和7年 1月28日

No. 9

校長 松井 渉

0学期スタート！

1月10日（金）から3学期がスタートしました。冬休みは伝統行事が多いけれど、子どもたちは何を経験したかな、どんな冬休みを過ごしたかな、早く子どもたちの話を聞きたいなと思いながら、10日の朝、子どもたちを待っていました。寒い朝でしたが、子どもたちは笑顔で登校をしてくれました。3学期の始業式は、感染症予防のためにリモートで行いました。私からは、「2学期の終業式で話題にした『形』の中に、除夜の鐘の話がありました。除夜の鐘は、鐘が一回鳴るたびに、嫌なことや苦しい気持ち、迷っている気持ちがひとつずつ消えていくそうです。そして、大晦日のうちに107回をつき、最後の1回を新年について、新しい気持ちになるそうです。3学期は0学期だと言われます。4月から、6年生は中学校1年生に、5年生は6年生にというように、一つずつ学年が上がります。でも、急に上の学年のお兄さん・お姉さんのようには行動できるわけではありません。6年生もすぐに中学生のように行動できるわけではありません。だから、3学期は、学年のまとめの時期であると同時に、次の学年に向かう準備期間の0学期でもあります。3学期は一番短い学期ですが、その準備期間に、学校に行くのに関係のないものは持ってこない、授業中は、よい姿勢で座る、自分から、あいさつをするなど、形を整え、一人一人が、“まとめ”と“準備”をしっかりとやりましょう。」という話をしました。どの学年においても、振り返りの場面を設け、自己の成長を自覚させるとともに、「4月からどんな0年生（中学生）になりたいか。そのために、いま、何をするといいか。」などを考えさせることを通して、進級および卒業に向けて前向きに行動する気持ちを高めてまいります。

昨年、おだやかで楽しいはずの1月1日に起こった能登半島地震は衝撃的でした。被災なされた方々に心よりお悔やみとお見舞いを申し上げます。地震が起こってしばらく過ぎたニュース番組で、大学受験を控え被災した高校3年生が、まわりのご厚意により受験勉強ができるようになった気持ちを聞かれ、「単純に勉強できることが幸せ」と答えていました。昨年1月15日付の山梨日日新聞に新潟県中越地震の時の高齢女性へのインタビューが載っていました。「風呂に入って自分の布団で寝る。朝は仏壇のおじいちゃんの位牌に手を合わせる。そんな普通の生活がしたい。」と。

新型コロナウイルス禍では、当たり前だと思っていた日常生活、学校生活が送れなくなりました。コロナが5類になり半年が過ぎ、ようやく、普通の日常生活が戻りつつある矢先の地震でした。今日を迎えられたことは当たり前でない、「当たり前だと思っていたことは、有るのが難し、本当は有難いこと」なのだという思いを深くしています。

新年に際し、改めて「ありがとう」をたくさん感じて伝え合う、「笑顔」でみんなが生きていける竜王小学校でありたい、そんな思いを強く感じているところです。

ご家庭におかれましても、学校生活や友達のことを話す子どもの声に、さらに耳を傾けていただき、よりよい学習習慣や生活習慣を身に付けることができるよう、頑張りを認め励ましていただけますようお願い申し上げます。



3学期もがんばっています！

能登半島地震被災者のための募金活動

6年生は、総合的な学習の時間を中心として、SDG sに関する学習を進めてきました。6年生は「SDG sって何だろう?」というところから始め、「自分にできることは何だろう」と主体的に学習を深める中で、「平和」と「環境」の問題に視点が絞られてきました。

環境問題については、自主的にゴミ拾いをする子どもたちもいて、今後、学区内等のゴミ拾いを行う予定です。

平和については、学習を進める中で、子どもたちから、最初、「募金をしたい」と申し出がありました。そこで、「募金といっても、世界には戦争のため平和に暮らせない人がいる。日本にも、貧困だったり犯罪に巻き込まれたりして平和に暮らせない人がいる。募金を何のために、誰のためにするのか」と私から質問をしました。その後、子どもたちが自ら考えた結果、「自分たちが能登半島地震で苦しんでいる方々の役に立ちたい」という回答がありました。

子どもたちの願いをかなえるため、今回、甲斐市に協力を願い、以下の日程で募金活動を行うこととなりました。

もし、よろしければ、当日、竜王庁舎においでいただき、募金への御協力をお願いします。

日 時：令和7年 2月 6日（木） 午前8時～9時

場 所：甲斐市役所竜王庁舎入口外側付近（4カ所）

研修を進めています！

学校では、さまざまなテーマのもと、研究や研修を進めています。

近年、スマートフォンやインターネット、SNS等を介したトラブルやデジタル性被害・加害、その他思いもよらない形で、児童生徒がトラブルに巻き込まれている実態があります。

そこで、本校では、1月24日（金）、甲斐市と連携し、竜王レディースクリニック院長 森澤 宏行 先生を講師にお迎えし、「児童生徒の健やかな成長に係る拡大校内研修会」を開催しました。甲斐市内の他校の先生方も参加され、児童生徒が責任ある選択をするための科学的で正しい知識やスキルを年齢に応じ身に付け、性行動が慎重化することで、トラブル等への対応や将来の被害・加害未然防止に資するよう、学習を深めました。



雨の日の水やり 2

前々号の学校だよりの「雨の日の水やり」を読んだ本校職員が、こんな話をしてくれました。

『以前、勤めていた学校で、ある日、学校に行くと、先輩の先生が、花壇の花に水やりをしていた。その日は、大雨が降った次の日だったので、「先生、昨日、雨が降りましたけど」と話すと、その先輩の先生は、「水やりをやっているのではなくて、雨のため葉についた泥を洗い流しているんだ!」と答えてくれた。』

私は、その話を聞いて、優しさや思いやりの心は、いろいろなあらわれ方があるものだなあと感じました。相手の気持ちを想像して優しく接するようになるには「想像力」をはじめ、「共感力」や「対話力」など、さまざまな力が必要となります。私自身、子どもたちのよい手本でありたいと思いました。